

誰も置き去りにしない、
生き抜く力にあふれた
子どもたちを育むために



未来 Watch

みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティ

特集

未来につなぐ学校づくり 第4回

「明日も来なくなる学校」をめざして

私がつくる子どもの笑顔 第15回

学校創立150年 大江小学校のめざしたこと

連載コラム 第4回

レジリエンスの構築に向けて —今、求められる「乗り越える力」—

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

※写真は北アルプス・濁沢カール(長野県)です

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

ホームページで「講演動画」公開中!

ニッケ教育研究所 ビデオギャラリー

教師の皆さまへ 模擬授業形式の特別講演

「教師の日常改革」

授業が変われば
学びが変わる!
子どもが変わる!

〈講師〉関西学院初等部 教諭 森川 正樹 先生

スマホから、ご視聴いただけます

「授業で勝負する」ためのヒントは、
子どもたちとの何気ないやりとりの中にある——
気づきを実践につなげられるお話です。ぜひ、ご覧ください!

動画の
ご視聴は
こちらから



一般会員募集

私たちと一緒に、「子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり」に参加していただけますか?
子どもたちは“未来の宝”です。私たちが発信する未来の宝を育む情報を、学校・家庭・地域で
是非ご活用ください。入会のお申し込みは、ホームページでご案内しています。

編集後記

長い人生の中で、誰もがさまざまな試練や困難に直面します。それを乗り越えるために、どうすれば
良いのか悩み苦しむことでしょう。新しいことにチャレンジしようとするとき不安や恐れを感じるがよくあ
ります。しかし、それを乗り越えて行動してみると想像以上の結果が手に入ります。目標を掲げその実
現に向けて「行動」していくことが成長につながっていくと考えています。感情に振り回されず冷静に判断
し、目指す方向に向けて行動することがより良い結果を導く唯一の方法だと感じます。一つ一つ困難を
乗り越えていくことで自分自身が成長し、まわりの人に感謝できる自分になっていけるのだと感じます。
全てに感謝できる豊かな自分自身を築いていきたいと思ひます。

一般社団法人ニッケ教育研究所
理事長 楠本 景央



FOLLOW
US!





子どもたちは、やがてより広い社会との関わりを持っていくこととなります。その未来を輝かせるために、必要な力を身につけておくことが大切です。ここでは、中学生世代の子どもたちの教育について、現職の校長先生に考え方や具体例を紹介していただきます。
第4回は、大阪市立花乃井中学校の塩見貴志校長です。

第4回 「明日も来たくなる学校」をめざして

《大阪市立花乃井中学校》 しおみ たかし 塩見 貴志 校長

本校（大阪市西区）は、全校生徒588人の中規模校です。校地の北東隅には、校名の由来となった名水「此花乃井」の井戸跡があります。また、校区内には、川口居留地跡や初代の大阪市役所跡など、大阪の経済・文化・行政の中心地として発展してきたことを偲ばせる史跡も多数残されています。

現在の西区は、良好な居住環境や交通の利便性が高く評価され、マンション建設が相次ぎ、人口は増加の一途をたどっています。本校でも、人口増加に伴って教育的ニーズが多様化する中、大きな転換期を迎えています。ここでは、その変化に対応するための取組の一例を紹介します。
※「校区」：「通学区域」の通称名称。



学校教育目標

1. 人間尊重の精神を基盤として、真理と平和を愛し、心身ともに健康で、情操豊かな人間を育てる
2. 自主的・自立的な態度を身につけ、正しい判断のもとに責任ある行動のできる人間を育てる
3. 集団の成員として自他の人格を尊び、協力しあって集団の向上に努める人間を育てる

めざす生徒像

人権感覚豊かな「自主性・協調性・責任感」のある生徒

変わりゆく校区の風景

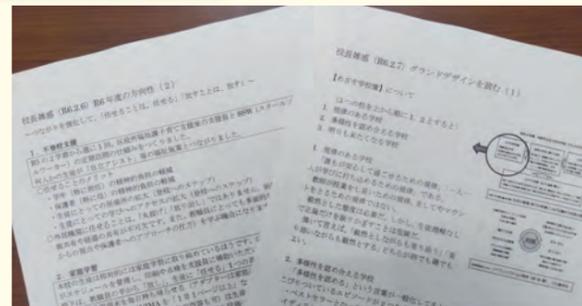
校区は落ち着いた街並みで、古くからの住民や創業の古い企業が多くあります。保護者や地域の方々は、学校の教育活動に対して理解が深く、協力的です。教育的ニーズをひとこと言う「凡事徹底」です。教職員はこれまで学習指導と集団育成に労力と情熱を注ぎ、成果を残してきました。

一方で、人口の急増は新たな課題を生んでいます。新しい住民の地域コミュニティへの帰属意識が希薄であることや、急

な来日に伴う日本語指導が必要な外国籍生徒の増加などにより、教育的ニーズが多様化・複雑化しています。また、2024年4月には、本校から徒歩3分の場所に中之島小中一貫校（大阪市北区）が開校しました。西区の人口急増への対策を含めた変則的な全市募集が行われ、校区内からも多くの児童・生徒が通うようになってきました。そのため、通学路の安全指導をはじめ、区をまたいで連携が必要となっています。

任せることはつながること

教育的ニーズが多様化・複雑化していく中で顕著になった課題は、不登校と長時間勤務でした。私は2023年4月に着任しましたが、両方とも大阪市の平均を大きく上回っていました。教員の働き方を見てみると、これまで通り学習指導と集団育成に労力と情熱を注いでいました。その一方で、空いた時間に家庭連絡を取り、別室で不登校生徒の学習支援をするという具合で、お互いが目いっぱい状況でした。そこで、私が示したのは「しっかりと見立てて、必要な場合は外部機関とつなげる」「任せることは、丸投げ・放り出しではない」ということでした。

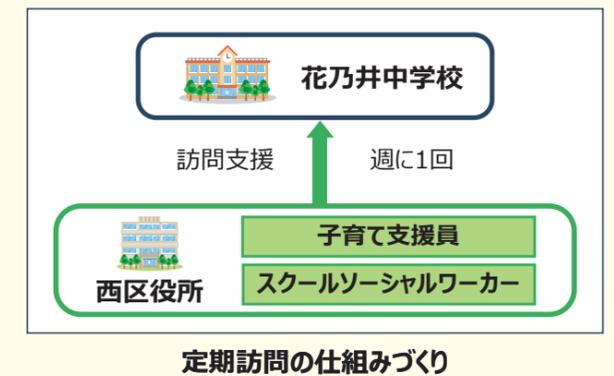


新しい取組や校長の考え方を教職員に伝えるときは、頭の整理を兼ねて、自分の言葉で1枚の用紙にまとめて校内掲示板で示しています

2023年9月から、区役所の子育て支援員とSSW（スクールソーシャルワーカー）の方々に週に1回、定期訪問していただく仕組みを作りました。当初は、管理職と生徒指導主事に対応し、不登校をはじめ要支援生徒の情報共有や相談を行っていました。やがて担任も相談に来るようになり、例えば「子ども自立アシスト事業」につなげた家庭は、当初0件から延べ10件を超えるようになりました。

この段階の生徒は、不登校が長期化（小学校時代から継続）していたり、引きこもり状態（家庭訪問しても担任は会えない）になっていたりするケースが少なくありません。そのため、学校外に居場所やつながる大人ができることは、本人にとっても保護者にとっても精神的な負担軽減につながります。また、教員の資質・能力の面を考えると、情報共有や相談を進める中で、これまでの支援を客観的に見直すことができます。さらに、子育て支援員とSSWの福祉的視点に直に触

れることで、考え方が広がったり深められたりします。外部機関と連携することは、始動するときは事務的にも精神的にも負担を感じますが、動き始めると生徒にとっても教員にとっても多くのメリットがあります。



校内教育支援センター（SSR）運用の実際

自力で登下校できるが教室に入れない（入りにくい）生徒の支援は、担任の対応による部分が多く、負担も大きいものでした。そのため、校内に居場所や他の大人が関わるのできる仕組みをつくれなかったかと考えていました。運良く、2024年4月から大阪市で新たに始まる「校内教育支援センター（SSR：スペシャルサポートルーム）のモデル設置」に声をかけていただきました。条件がクリアできたため、4月より運用を開始しました。

スペシャルサポートルーム支援員は、週5日、1日6時間勤務で、9時から15時までの開室時間中は常駐し、来室する生徒の支援を行います。教員ではない大人が常にいること、そして毎日同じ人がいることが、来室する生徒に安心感を与えているようです。部屋の飾りつけや廊下・トイレの清掃、給食の配膳と片付け（職員室に用意）などを生徒自らが行うことで、集団生活の要素も取り入れています。開室時間中であれば、自分のペースに合わせて登下校することができます。そのため、2週間に1回、ほぼ毎日、午前か午後1時間程

度、給食をはさんで5～6時間と、生徒の来室頻度はそれぞれ異なりますが、1学期には19人が利用しました。

3年生は進路を意識してか、来室生徒の多くが定期テストを学年の別室で受験しました。SSRへの登校をステップにして、学級活動だけ、1時間だけ、修学旅行だけと、限定的に自分のクラスに戻れた生徒もいます。一方で、学習習慣が身につけていない生徒が多いため、居場所としては機能しても学習支援にまでは至っていません。体験活動を通じたソーシャルスキルの向上とは言うものの、様々な課題も出てきました。例えば、ものづくりやコミュニケーション（カード）ゲームばかりを好み、来室生徒同士で人間関係のトラブルが生じるなどです。

本校のSSR設置の目的は、「一人一人が生活の中で心の元気を回復し、自分のクラスで学習できるようになることが望ましいが、そのことを最終目標とはせず、社会的自立をめざすよう促す」です。それに沿って、一人一人が自立にむけた小さな一歩を踏み出しています。



おわりに

2024年度の「花乃井中学校グランドデザイン」では、めざす学校像の一文を「明日も来たくなる学校」としました。不登校生徒への支援に真剣に取り組むことは、日本語指導を必要とする生徒、発達に課題のある生徒など、すべての生徒の

支援につながります。子ども同士、子どもと大人、大人同士…すべての人が、校門を出るときに「じゃあ、また明日」と笑顔を交わすような学校をめざします。

私がこくろ 子どもの笑顔

子どもたちの元気な声や輝く笑顔にあふれた学校をめざし、現場ではさまざまな創意工夫が活かされています。ここでは、小学生世代の子どもたちの教育について、現職の校長先生に考え方や具体例を紹介していただきます。
第15回は、大阪市立大江小学校の樋口義雄校長です。

第15回 学校創立 150年 大江小学校のめざしたこと

ひぐち よしお
《大阪市立大江小学校》 樋口 義雄 校長



本校（大阪市天王寺区）は、1874年（明治7年）に創立され、2023年11月、創立150年記念式典を挙行了しました。いかなる時代や社会においても変わらぬ『大江の教育』に対する高い誇りと熱い思いが脈々と受け継がれ、歴史と伝統を積み重ねて今日に至っています。ここでは、学校創立150年の本校がめざしたことについてお話しします。

学校教育目標

豊かな心で、自ら考え判断し、進んで行動する子どもを育てる

めざす子ども像

- 思いやりのある心豊かな子ども
- 確かな学力を身につけた子ども
- 健康で体力をしっかりと身につけた子ども

自問自答の末にたどり着いた『一人も取り残すことなく、輝く年に！』

周年行事の前年度である2022年度時点で、そのプランはまだ決まっていませんでした。まさに、周年行事を目前に赴任した校長が、役目として巡り合う場面のようにも思われます。私は自問自答の末、「最高に思い出に残る1年は、誰一人取り残すことなく、輝いている姿の創出から始まる」という結論に至りました。それをもとに、2023年度の始業式では「今年は150歳記念の年です。これまで以上に一人ひとりの笑顔が輝く学校にしていきたいと思います！」とスタートしました。私は子どもたちに「その主役は誰ですか？」と尋ねました。子どもたちの多くは「みんな」と答えましたが、「みんな」という言葉の中に『誰かがやるだろう』という、どこか人任せにする気持ちがあるのではないかと思ったので、あえて言いました。「主役は、あなたです！わたしです！ぼくです！」と。本校は、歴史と伝統のある素晴らしい学校ですが、これからも素晴らしい学校でしょうか？そんな保証は全くありません。大事なものは、今いる子どもたちが輝いているかどうか。そのために、守りではなく攻めていくことにしました。そこで、子どもたちに

提案したのが、「150にちなんだ、わたしの目標・クラスの目標・学年の目標を考えよう！」ということです。名付けて「大江っ子チャレンジ150！」。やってみたくを挙げ、4月中に決めました。5月に「大江っ子チャレンジ150！大宣言大会」、10月に「中間報告会」、2月に「結果報告会」を行うことにしました。また、6月に「お誕生日お祝い集会」と「バルーンリリース」、そして11月11日に記念式典を開催することも決めていました。このようにして、150年目のスタートを切ったのです。

参考：R5年度

大江っ子チャレンジ150！目標

学年の目標	学級の目標	主な個人の目標
1年 めざせ イキモン マスター 150しゅるい ゲットだぜ！	い組 ろ組 は組	花や虫など、大江の生き物を見つけてカードに書き、150枚集めて生き物図鑑を作ります。（生活科）
2年 なかまのよいところを見つけ 言葉にしてとけよう	い組 ろ組	大江小学校を きれいに そろじしよう ・字をきれいに書く・忘れ物をしない・外で元気に遊ぶ ・字をいぬいに書く・忘れ物をしない・毎時発表する
3年 今と昔のちがいを 150個調べよう	い組 ろ組 は組	あきらめずに最後まで チャレンジしよう たすけあえる ・なわとびを150回とぶ・あいさつを150人にする ・フールで150m歩く・100点を150とる ・150回手をあげる・なわとびを150回とぶ ・150日忘れ物をしない ・本を150さつ読もう・二重とびを150回とぶ ・マンガを150冊かく
4年 大阪のお祭りを 150こ調べること	い組 ろ組	助け合ったり、やさしくしたりしたこと クラスで150こ集めること ・150回のお祭り150回調う・あいさつ150回・1日お祭り150回 ・友だちと遊ぶ150回・セパを150回かく・たこ焼き150回 ・生き物集150枚・お祭り150回・お祭り150回・お祭り150回 ・漢字の勉強150回・150回のお祭り・世界150の国を知る ・まだ知らないことを150発見する・お祭り150回調う・運動場150回走る ・お祭り150回調う・150回のお祭り・150回のお祭り・お祭り150回調う
5年 SDGsに関する 取り組みを 150こ見つける	い組 ろ組	中国語の単語を150こ教えてもらう いいところみつつけ150こ 満足150チャレンジ 林間150チャレンジ
6年 150種類以上の職業を調べ 150曲歌ったり演奏したりする	い組 ろ組	宿題忘れ150日以上ゼロ ほめ言葉で150

出合いを生かしてつないだバルーンリリース

2023年6月6日、大江小学校の150歳を祝い、風船500個それぞれに1粒のひまわりの種を入れたメッセージカードをつけて、大江小学校から飛ばしました。このひまわりの種は、前年度に本校で収穫されたもので、阪神淡路大震災にゆかりのある「はるかのひまわり」の種です。リリースして約3時間後、第一報が京都市左京区桂から入りました。その後、1件また1件と続き、最終的には36件ものお便りをいただきました。最長距離は、名古屋市長白区からの葉書です。手描きでひまわりとネコの絵が一面に描かれていました。また、イラストレーターをめざしている子が飛ばした風船は、偶然にも文化財を修理する技術者のもとに届きました。さらに、花を描いた葉書を返信・投函する前に旦那さんに見せたところ、旦那さんが大江小学校の卒業生だったなど、想像をはるかに凌ぐエピソードが生まれました。ほかにも、京都市西京区にある市立西陵中学校の支援学級の生徒さん、長岡京市長岡第十小学校の子どもたち、高槻インターを降りて車を走らせていて、たまたま木に引っかかるメッセージカード付きの風船を発見された方、京都山中の田んぼの早苗の中にあつた風船を拾われた77歳の方など、真心こもる1通1通に驚きと感動の連続でした。

その中のひとつ、京都市下京区から届いたお便りにはこうありました。「6月10日（土）に、家の裏の水道の蛇口に風船手紙を見つけました。メッセージを読み、感動し、ひまわりの種を手にしてとても嬉しく幸せな気分です。〇〇くんの夢、実現するよう願っています。ひまわりの種は、早速、小学5年生の娘と一緒に蒔きました。きれいなひまわりの花が咲くのを楽しみにしています。身体に気をつけて、勉強に、運動に、頑張ってください。ありがとう。」バルーンリリースを通して、世の中にはこんなにも温かい人がいることを実感するとともに、大江っ子にとって何よりの励まし・喜び・勇気となりました。



中間報告会でのサプライズ

学校に届いたお便りの中で、京都市桂にある自衛隊桂駐屯地の女性自衛官からの絵手紙やひまわりの観察日記は特に目を引きました。その方は、自衛官としての仕事と1男6女の子育てを両立されている方でした。ぜひこの方と交流したいと思い、早速連絡を取りました。何度かやり取りをするうちに「お会いしたい」という気持ちが湧き、「ひまわりが咲く頃に、桂駐屯地へ伺ってもいいでしょうか？」と尋ねました。その後、8月20日に関係者3人で桂駐屯地を訪問しました。そこで、

「大江っ子チャレンジ150！中間報告会」にお越しいただきたい旨をお伝えしました。快く引き受けてくださり、さらに当日流すサプライズ用の動画も撮影させていただきました。そして10月25日、中間報告会に電撃来校していただきました。女性自衛官から学校に届いた絵手紙のことを子どもたちはよく覚えていましたが、来校されることを内緒にしていたため、登場された時の雰囲気は最高潮に達しました。豊かな心とは何か、そのことを感じる機会となったのではないかと思います。



一人ひとりが輝く未来へ

女性自衛官の方は、私たちが風船のメッセージカードに入れた一粒のひまわりの種を、隊員のみなさんと大切に育て、大輪の花を咲かせました。日々育てながら色鉛筆で描いた観察日記も、後日、送っていただきました。本校に来て、その方は語りました。「私は風船を手にして、その風船についていたメッセージに感動しました。感動したから手紙を書いたのです」と。現在、世の中には暗いニュースが大変多いです。しか

おわりに

子どもたちが自分の可能性を信じて粘り強くチャレンジする時、そして花開く時が必ずやってきます。ふるさと大江小学校

し一方で、私たちの気持ちや夢に感動し、真心で応えてくださる方もいます。暗いニュースに右往左往するのではなく、感動して行動する、人のために心を尽くすという豊かな生き方こそ、私たちがめざすべき生き方、進むべき方向ではないでしょうか。輝く未来へ向かって、心豊かに、日々自身の目標にチャレンジする一人ひとりでありたいと思います。

を誇りに、前へ、未来へ、世界へ、新たな歴史をともに創っていきたく心に刻んだ一年となりました。

第4回

レジリエンスの構築に向けて

— 今、求められる「乗り越える力」 —



《二ツヶ教育研究所顧問》 **かつもと たかお** **勝本 孝夫**
元・大阪市立榎本小学校校長（鶴見区）
元・大阪市立姫里小学校校長（西淀川区）

「現実課題をいかに克服するか」を考え、行動に移す時、試練や困難に立ち向かっていくことが必要です。変化が激しく先行き不透明な時代にあって、「レジリエンス（困難を乗り越える力）」の発揮が求められるのは、そのためではないでしょうか。ここでは教育現場で得た知見をもとに、レジリエンスを生み出す要因について考えていきます。今回は④をお話しいたします。

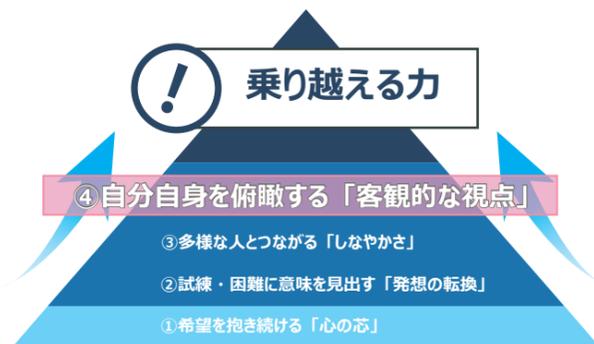


「乗り越える力」を生み出す4つの要因

- 1 希望を抱き続ける「心の芯」
- 2 試練・困難に意味を見出す「発想の転換」
- 3 多様な人とつながる「しなやかさ」
- 4 自分自身を俯瞰する「客観的な視点」

4 自分自身を俯瞰する「客観的な視点」

「乗り越える力」を生み出すためには、4つの要因を具体的なイメージとして思い描くことが大切です。前回の2024夏号では、多様な人とつながる「しなやかさ」を持つことで逆境に立ち向かう「心のエネルギー」をより強くし、未経験の試練や困難に直面しても乗り越えていくことができることをお話ししました。そして、今回は最終回です。より高次の命題になりますが、大小さまざまな試練や困難が同時に押し寄せてきたら、どうすれば良いのでしょうか。ともすれば自分自身を見失い、空回りしてしまうかも知れません。ここでは、すべてを乗り越える力「レジリエンス」を発揮するために必要な「視点」について、教員としての実体験からお話します。



同時に直面したいくつもの試練・困難

小学校の担任をしていた頃、何度も困難な状況に直面しました。そのような時、「心の芯」を土台に築くことで、前に進む勇気を出すことができました。また、「発想の転換」をすることで、前に進み続けることができました。さらに、「しなやかさ」を持つことで、困難を乗り越える強さを身につけることができました。しかし、管理職になった途端、大小さまざまな試練や困難が

同時に押し寄せてくるようになりました。それまでに経験したことのない状況に陥ったことで、私は慌てふためき、空回りしてしまったのです。そして、それまで身につけてきたものだけでは、生涯を通じてすべてを乗り越え続けていけないことを痛感しました。今となっては、当時の苦い経験が、学びや成長の機会を与えてくれたと感謝しています。では、若い頃の私に何が足りなかったのでしょうか。

自分を見つめる〈もう一人の自分〉

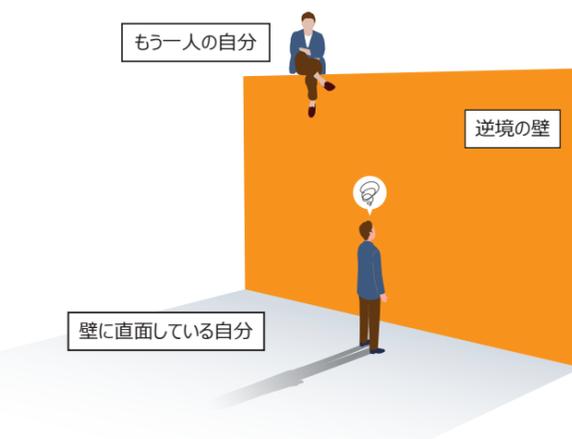
それは、私が小学校の教頭になって初めての2学期も半ばに差しかけた頃のことです。秋が深まりゆくこの時季は、運動会や学習発表会、作品展などの学校行事が目白押しで、新教頭として練習や準備に追われていました。職員室にいる時間は校務分掌を行い、教職員の相談に応じるなど多忙を極めていました。このように奮闘する毎日でしたが、担任時代には味わったことのないほどの逆境の壁が立ちはだかり、ただただ悪戦苦闘しているのが実情でした。

自分を失いかけていたある日、そんな私を客観的に見つめる〈もう一人の自分〉にふと気づいたのです。そして、過去の出来事が蘇り、〈もう一人の自分〉が私にささやいてくれました。

—— よく頑張っているね。でも、すべてが空回りしていると思うよ。担任時代に乗り越えてきたことを思い出して、教頭としての立場から、**誰かが待っているという「心の芯」**に戻って見たらどうですか？ ——

すべてを乗り越えるための「客観的な視点」

この時、すべてを乗り越えていくためには〈もう一人の自分〉の存在が不可欠であると感じました。つまり、**自分自身を俯瞰する客観的な視点**を持つ必要があるのです。あたかも山の頂上から麓を見下ろすように、「現実は今、悩み苦しんでいる自分」を客観的に捉えることが重要です。〈もう一人の自分〉という、なんか神秘的な感じのように感じられるかも知れませんが決してそうではありません。心を落ち着かせて集中し、自分自身について深く考えることで、悩み苦しんでいる自分を見つめる〈もう一人の自分〉に気づくと思います。



その瞬間、私は心の中で叫びました。—— そうだ！あまりにも多くの壁が立ちはだかつて、原点である「心の芯」を忘れていたのだ！ ——

「困った時には原点に戻れ！」と常に心に期していましたが、この時ほど、その言葉がしみじみと心に染み込んできたことはありませんでした。勇気が湧き、心に少しの余裕が生まれてくるのを感じました。

私は自分の中にしっかりと「心の芯」を置き、「発想の転換」と「しなやかさ」を心掛け、再び前に進み始めました。保護者・地域・教職員と手を携え、複雑に絡まり合った糸を少しずつほぐすように、粘り強く逆境の壁に挑みました。やがて、ひとつひとつの壁を共に乗り越え、共に成長できた喜びは今でも忘れられません。あらためて、「**逆境の壁は壁ではなく、自身を成長へと導いてくれる“母なる存在”である**」との確信を深めることができた私は、皆さまへの感謝の念が湧いてくるのを禁じ得ませんでした。

ここでは、2つの観点から考えることが必要です。

思索	「どうして、このように悶々と悩んでいるのか」	思索	「これまで、このような状況を乗り越えてきたではないか」
対応	起こっている出来事と、関わっている方たちとの関係性を探る	対応	過去から現在に至るまでの出来事を振り返る

空間軸

時間軸

このように考えることで、「心の芯」という原点に戻ってみよう、「発想の転換」をしてみよう、「しなやかさ」を持って人とつながってみよう、というように、忘れかけていたことや出来ていなかったことを見つけられるのです。

自分が思考していることを客観的に捉えて把握することは、「メタ認知」と言われています。私は、**メタ認知の力を高める**ことで、どんな状況でも試練や困難を乗り越えられると感じています。なぜなら、冷静に自分自身を洞察することで、**空回りの原因が明らかになる**からです。そして、正しい判断の下で強みを活かし、弱みを克服する行動をとることが、課題解決への突破口となるのです。

人生の確かな幸福感・充実感

このような経験を繰り返しながら、奮闘していること自体に感謝の念が湧くようになりました。皆さまと共に試練や困難を乗り越え続けることが、皆さまの幸せにもつながっていると心から実感したからです。まさに、レジリエンスを構築できていたのです。レジリエンスを構築することの真の意味を考えた時、それは、「かけがえのない自分の人生が、**世のため人のために**

つながっている」という、人生の確かな幸福感・充実感を得ることだと痛感します。

一見、不幸に思えるような出来事の中にも、自分を成長させてくれる「種」があり、「希望の光」がある —— そのことを胸に抱きながら、これからも素晴らしい人生を歩んでいきましょう。

スマホで読める、感動のコラム！



地域のまなざし

吹風の様子や雲の流れを見ると、夏から秋へと季節が回り舞台のように移ろいゆくを実感する今日この頃です。耳を…

続きはこちらから >>>



続・信じ抜く慈愛

この夏は酷暑が続いていましたが、厳しい暑さも時折和らぐようになり、いよいよ2学期がスタートしました。ただ、夏休み…

続きはこちらから >>>

